

やってみよう!

かんいけんだく  
簡易懸濁

[監修]

鳥取赤十字病院 薬剤部



## 簡易懸濁法って何だろう？

簡易懸濁法とは…

錠剤やカプセルを粉砕・開封せず、そのままあるいはコーティングに亀裂を入れて、お湯(約55℃)に入れ、崩壊・懸濁させて経管投与する方法です。

お薬をつぶす方法よりも、以下のような利点があります。

☆お薬の変化を防ぐことができます。

つぶすと光・温度・湿度などによるお薬の変質や効果の低下が起きることがあります。

☆つぶすことで、お薬はある程度、器具についてしまいます。

投与できるお薬の量が減るのを防ぐことができます。

☆チューブがつまりにくくなります。

☆お薬を投与する直前まで、お薬の確認ができます。

☆つぶすことにより粉末状になったお薬を吸い込む危険がなくなります。

☆量の変更や中止に対応しやすく、お薬が無駄になりません。



かんいけんたくほう  
簡易懸濁法の手順

### 【準備するもの】

お薬、注入器、小さな耐熱性容器(30mL程度入れればOK)、  
かき混ぜる棒(割りばしなど)



### 【55℃のお湯の作り方】

※熱湯だけは絶対ダメ！お薬の効果が失われる可能性があります。  
※ミネラルウォーター(硬水)を使うとお薬に影響がでることがあります。水道水を使いましょう。

方法① 熱湯(90~98℃):水道水 = 2 : 1 の割合で混ぜる。

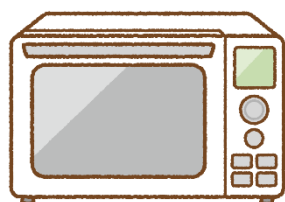


方法② 電子ケトル・ポットなどの設定温度を60℃にする。



**設定温度  
60℃**

方法③ 水道水100mlを500Wで60秒ほど温める。



**水100mL  
500Wで60秒**

## 【実際の手順】

★作業の前には、手をしっかり洗いましょう。

### [容器を使う場合]



①1回分のお薬を  
入れます。  
※カプセルもそのまま  
入れてください。



②20mLのお湯を  
入れて10分間  
放置します。



③よく混ぜます。  
※しっかり懸濁されて  
いるか、確認してく  
ださい。

### [注入器を使う場合]



★抗がん剤など、曝露リスクの高い  
お薬はこちらの方法をオススメします。



※注入器で吸います





④ 注入器をチューブに接続し、懸濁液を投与します。

※お薬によっては振り混ぜながら注入するものもあります。



⑤ 最後に20-30mL程度の水を10秒ほどかけて注入し、チューブの中お薬を完全に注入します。

※水分の制限がある方は、指示に従ってください。



⑥ 再利用する場合は、注入器はきれいに水洗いし、十分に乾燥させてください。

※汚れが目立つ場合は、新しい注入器に交換してください。

※ゴムの部分が動かしにくい場合は、新しい注入器に交換してください。

## 気を付けたいポイント！

★簡易懸濁しにくいお薬について、薬局で軽くつぶして亀裂(割れ)をあえて入れている場合があります。  
保管に注意が必要なお薬もあるため、薬剤師に確認しましょう。

★つぶしたり、無理やり溶かしてはいけないお薬があります。  
お薬の効果を長く効かせ、治療効果を高めるために、特殊な構造をしているお薬があります。そのようなお薬を粉砕したり、簡易懸濁すると、体の中のお薬の濃度が急激に上がったり、副作用が出る可能性が高まり、大変危険です。  
新しいお薬が始まる時は必ず薬剤師に簡易懸濁してよいか確認しましょう。

徐放錠:お薬の効果を長時間持続させるために、体の中でゆっくり吸収されるように設計されたお薬

- ・ 名前に「徐放」「L」「R」「CR」「SR」「TR」などついているもの  
例)アンブロキシール徐放錠<sup>®</sup>、アダラート CR 錠<sup>®</sup>など
- ・ テオドール錠<sup>®</sup>やナルサス錠<sup>®</sup>など名前だけではわかりにくいものもあります。

腸溶錠:胃障害を防ぐため、胃で溶けずに腸で溶けるように設計されたお薬  
例)バイアスピリン錠<sup>®</sup>、パリエット錠<sup>®</sup>など

★懸濁したお薬を長時間放置しないようにしましょう。  
10分以上放置すると、有効成分が低下してしまうお薬もあります。

★多くの場合、数種類の薬を同時に懸濁しても問題ありませんが、変色したり固まったりしたときは、必ず薬剤師に相談してください。

★お薬によっては容器を溶かしてしまうことがあるため、材質表示が「PS」「ポリスチレン」「スチロール樹脂」の器具(マグカップ・計量カップ・使い捨てスプーン等)は使用しないようにしましょう。

## 注意が必要な代表的なお薬

### 塩化ナトリウム(食塩)

栄養剤やお薬と一緒に溶かすと、固まってしまいます。必ず**単独で投与**しましょう。  
※少量のお水・白湯で溶かして投与すると、腸炎などを起こす危険性があります。

**水分補充用の白湯など、多めの水分で溶かして投与**しましょう。

水分制限などある方は、ご相談ください。

### 酸化マグネシウム錠とレボドパ製剤

一緒に懸濁すると効果が落ちます。必ず別々に投与しましょう。

### ビオフィルミン錠<sup>®</sup>・タケプロン OD 錠<sup>®</sup>

55℃のお湯に入れると、うまく懸濁せずに固まってしまいます。

**お水**で懸濁しましょう。

※ランソプラゾール OD 錠は、タケプロン OD 錠<sup>®</sup>と同じ成分でも、各種後発品など添加物が異なることで懸濁できるものもあります。調剤元の薬剤師に確認してください。

### アルロイド G 内容液5%<sup>®</sup>

水薬ですが、粘り気が強く、チューブを詰まらせます。

**絶対にチューブに入れてはいけません。**

### 抗がん剤や免疫抑制剤など

投与する方への曝露をふせぐため、必ずマスク・手袋・ゴーグルなどを使用しましょう。懸濁に使用する器具はなるべく使い捨てにしましょう。難しければ、しっかりと洗い、他の人が使用しないように注意しましょう。

★この他にも、お薬によっては、温度・注入方法など、個々に注意する必要があるものがあります。必ず医師・薬剤師の指示に従って簡易懸濁してください。

